

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0371200239
法人名	社会福祉法人 江刺寿生会
事業所名	グループホーム かつひろの家
所在地	岩手県奥州市江刺区岩谷堂字下惣田290-2 (電話) 0197-31-2201

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	2月5日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.1

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	64,950 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	- 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 87 歳	最低	81 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏木医院(内科)、佐々木歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>江刺ターミナルより10分、新幹線水沢江刺駅より車で10分、市の中心より見て南側に位置し、ホームの裏側は、人首川があり近くには大きな商店や民家があり市外を一望できる恵まれた環境にある。</p> <p>社会福祉法人 江刺寿生会の運営する15の施設の1つで、多くの寄付を頂いた「かつひろさん」の名をホームの名前にした。広々とした共用スペースを囲むように居室が作られ、それぞれの居室には、外に出られる引き戸があり、開放感をもたせている。ホームの東側には「人首川」が流れている為、感知センサーで安全を確保している。ホームは明るく、穏やかで居心地はとても良い。職員も笑顔を絶やさず、ゆったりと接している。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>要改善の項目は、ほとんどが改善されている。より良い支援をするために、会議や研修を多く持ち検討を重ねている。来年度は外部の研修にも積極的に参加をする計画を立てることを期待する。</p>
①	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で取り組み、項目によっては表現の仕方や、設問の理解に難しいところもあったが、自己の気づきも多く勉強になった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2~3ヶ月に1度開催している。討議の中で、外部評価が本当に必要か、との意見もあった。グループホームを地域の人達に理解してもらう手段として、広報(80部)を回覧して、広く交流をもつ努力をしている。発行回数も今後増やす計画もある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>開所6年になるが、洗濯物のしまい間違いを除き苦情はない。家族の面会は多く、職員との関係も良い。家族アンケートで意見を取り入れる努力がなされ、情報は常に家族に発信されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>周囲が新興住宅地であり、交流が取りづらい面があるが、運営推進会議のメンバーや防災協力員(現在18人を2人増員予定)隣のベビーホームとの交流等、除々に連携が取れ始めている。お茶飲みボランティアや芋の子会招待(5~6人参加)も行事として根づいてきている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時の理念は一般的なものであったが、地域密着型になったことを機に、全員で見直し現在の型に作りかえた。パンフレットの中に<普段の生活>として謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時に当番の人が法人の理念(言葉、笑顔、身だしなみ)を唱え、1分間のスピーチをしている。ホームに戻り申送りと共に職員に伝えている。玄関に掲示し誰の目にも付くようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人内のイベントには必ず参加をしている。商店街への買い物で、地域の人達とのふれあいを持っている。ベビーホームとの交流、ボランティア、民生委員の訪問、等行っている。	○	グループホームから出向いての交流はあるが、グループホームに来ていただいていた交流が少なく感じられた。老人会、婦人会への呼びかけを行い、今後様々な形で交流を図ることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、報告・掲示、運営推進会議で報告、検討し、実践につなげる為の努力をしている。またホーム独自の第三者評価委員(新聞社1名・苦情解決相談員2名・福祉事務所長1名)を依頼して様々な評価や自己確認が出来る体制が整えられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の課題や、検討事項について、経過の報告をしている。結果を踏まえて現在の取り組みについても、意見をもらい、地域密着型の理解も深まってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の受給者関係の手続きがあり、担当課と連絡を取りあっている。高額介護サービス支給申請書、生活保護介護券受給等ホーム側から必ず足を運んで手続きをして、市と情報の共有を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時には、出納帳の確認をしてもらい、サインを頂いている。来所できない遠方の家族に対しては、出納帳の写しと近況を記した手書きの手紙と、広報や写真を郵送している。家族への報告記録を確認した。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で現在まで10件の苦情があったが、グループホームではない。衣類のしまい間違いが1度あり注意を受けたが、家族とは些細なことでも話し合いお互いに理解にする努力をしている。家族アンケートを年1回実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ほとんど異動はないが、法人内での異動では、引継ぎに時間を掛けて(1ヶ月位)顔を覚えてもらう機会を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を多く計画し、職場研修、自己研修を行い法人内で発表会も行われている。今後は法人内外の研修をより計画的に取り入れれば、尚ケアの内容が深まると思われる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会企画の交換研修に参加している。(県南ブロック)職員研修、入居者宅訪問の交流を行っている。他事業所とは、待機者の情報を交換したり、電話、メール、FAX、で連絡を取り合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しては、グループホームを見学して貰ったり、お茶を飲んでもらうなど、安心と納得をして利用に結び付けている。本人と家族の気持ちを大切にしており、担当のケア・マネージャーとグループホームの職員も同行して自宅訪問することもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴から得意なことや体験を引き出して、教えてもらう場面を作っている。昔の話、方言、郷土食、干し柿、梅干作りを職員も一緒に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接および(私がわかること、できそうなこと)シートを作成し、ケアプランに活かしている。生活歴も参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に当たっては、アセスメントを基に本人、家族の意見を取り入れて作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則は3ヶ月に1回(変化に応じて随時)である。見直した介護計画書は、家族の同意を貰っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の施設を利用し支援を行っている。「自宅を見たい」の希望に応じてドライブしたり、本人の気持ちの安定を図る支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に継続して受診している。3名の方は家族が介助し、他の方は職員が介助している。通院状況確認表から、受診支援がよく行われていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内での急変時に対する協力体制はあるがグループホームとしては(看取りについて)検討中である。入居時において家族との話し合いはされている。	○	いつ何時ターミナルが訪れるか予測できないので、グループホームとしても意識共有や看取りについての研修を行い、対応を考えていくことについて期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した声かけ、介護度5でも、排泄はトイレで行う。羞恥心に配慮したマニュアルが作成されているほか、個人情報には気配りがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話で入居者の気持ちを把握し介護にあたる。買い物、散歩、等一人ひとりの状態や想いに配慮し柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、盛り付け、おにぎりやすいとん作りなど利用者と職員が一緒になって行っている。それぞれ役割分担があり楽しみながらやっていた。男性の利用者も楽しそうにやっている場面を見ることが出来た。また食事中も同じテーブルを囲み楽しく食事が出来る雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴になっている。入浴が好きでない人に対しては声がけに、工夫をしている。入浴判定基準・マニュアルあり。最終判定は「さくらの郷」の看護師に依頼している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・食事作り・洗濯たたみ・布ぞうり作りなど出来るようなことは、声掛けで行動していただいている。出来た時は感謝とねぎらいの気持ちを伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の好きな人・買出しに行く人・ドライブは月1~2回、自宅に行きたい人の希望にも対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放、ホーム東側に「人首川」が流れているので、危険防止上センサーを付けて見守りを強化している。各居室にも、外に出られる引き戸がついている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年4回の避難訓練をしている。地域の防災協力員を18人から本年度2人増員した。防災マニュアル、非常用品も用意されている。夜間に於ける協力体制が弱いようなので、充実を期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量のチェック(個人表に記録)刻み食3人・常時おかゆ2人に対応している。栄養チェックは併設の管理栄養士に指導をして貰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとしたスペースを利用し廊下はない。食堂と共用空間にはソファー、畳のスペースには掘りコタツと思いい思いの居場所を選べる。光も天幕で強さを和らげている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	書・家族の写真等、自分の家が移動してきたように、気が休まる。数は多くないが、使い慣れたものの持込がされている。		